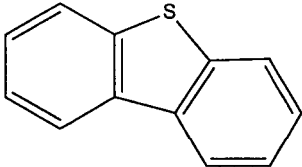


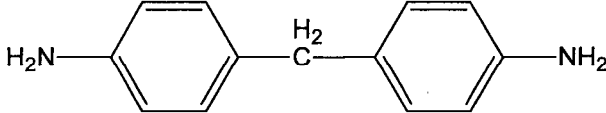
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-3352	CAS No.	132-65-0
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジベンゾチオフェン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.32、0.50、0.80、1.3、2.0、3.3 mg/L 実測濃度 0.18、0.29、0.45、0.72、1.2、1.9、3.1 mg/L (初期実測値) 0.14、0.22、0.33、0.55、0.97、1.7、2.8 mg/L (幾何平均値) 助剤： THF 及び HCO-40 (11:140) 100 mg/L 0-72hErC50 (幾何平均値に基づく) = 1.6 mg/L 0-72hNOECr (幾何平均値に基づく) = 0.55 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.073、0.13、0.23、0.40、0.70 mg/L (幾何平均値) 助剤： THF 及び HCO-40 (1:14) 30 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) = 0.44 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.010、0.025、0.070、0.19、0.50 mg/L 実測濃度 0.008、0.019、0.054、0.15、0.43 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 及び HCO-40 (1:1) 30 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.054 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 0.33、0.60、1.0、1.8、3.3 mg/L 実測濃度 0.24、0.44、0.85、1.5、2.6 mg/L (幾何平均値) 助剤： THF 及び HCO-40 (1:14) 99 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) = 1.4 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.33 mg/L 群及び 0.60 mg/L 群： 異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 10/10) 1.0 mg/L 群： 異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 9/9、96hr 7/9) 平衡喪失 (96hr 2/9) 1.8 mg/L 群： 異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 7/9) 平衡喪失 (48hr 2/9、72hr 6/6、96hr 5/5)		

魚類初期 生活段階 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：卵・胚期 半止水式、3日以内に1回換水 仔魚・稚魚期 流水式 物質濃度：設定濃度 0.010、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L 実測濃度 0.0087、0.028、0.088、0.27、0.88 mg/L (時間加重平均値(卵・胚期)及び算術平均値(仔魚・稚魚期)) 助剤：DMF及びHCO-60(1:1) 80 mg/L NOEC(設定値に基づく)=0.032 mg/L 【推定根拠 体重、体長】				
生態影響 判定根拠	ミジニコ急性遊泳阻害試験において48hEiC50=0.44mg/L、ミジニコ繁殖阻害試験において21dNOEC=0.054mg/L、魚類急性毒性試験において96hLC50=1.4mg/L及び魚類初期生活段階試験においてNOEC=0.032 mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/45	—	0.05~0.1(μ g/L)
		H10	0/42	—	0.02(μ g/L)
	底質	S58	6/45	0.001~0.005(μ g/g-dry)	0.001~0.007(μ g/g-dry)
		H10	28/39	0.0022~0.14(μ g/g-dry)	0.0021(μ g/g-dry)
	魚類	H10	15/39	0.00071~0.013(μ g/g-wet)	0.00034(μ g/g-wet)
備考	※1 S59、H11版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.32、0.42、0.56、0.75、1.0、1.3、1.8、2.4、3.2 mg/L 実測濃度 0.20、0.26、0.41、0.51、0.86、1.2、1.7、2.0、2.8 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤：アセトン 32 mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) = 0.51* mg/L *試験は 3, 3' -ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については 3, 3' -ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.41 mg/L 群：内出血またはうっ血 (96hr 1/10) 0.51 mg/L 群：内出血またはうっ血 (96hr 2/7) 0.86 mg/L 群：不活発 (24hr 1/10、48hr 5/9) 異常遊泳 (48hr 3/9、72hr 4/6)、 横転 (48hr 1/9) 内出血またはうっ血 (96hr 2/3) 1.2 mg/L 群：不活発 (24hr 2/10、48hr 2/7) 異常遊泳 (48hr 1/7、72hr 1/4) 内出血またはうっ血 (72hr 1/4、96hr 1/1) 1.7 mg/L 群：不活発 (24hr 5/10、48hr 2/2) 内出血またはうっ血 (72hr 1/1、96hr 1/1)</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.9mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.51mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54 H15	0/21 1/57	— 0.014(μg/L)	0.01~7(μg/L) 0.010(μg/L)
	底質	S54	0/21	—	0.0003~0.9(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S55、H16 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

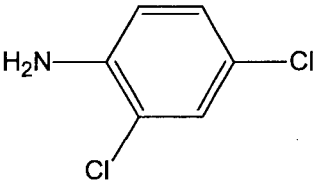
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-40	CAS No.	101-77-9
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として平成元年3月22日に告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4'-メチレンビスベンゼンアミン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成元年3月22日に告示済み。 変異原性、反復投与毒性試験において重要な影響及びがん原性がみとめられることから、 指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.43、0.93、2.0、4.3、9.3、20 mg/L 実測濃度 0.18、0.38、0.80、1.8、4.0、8.6、19 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 12 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 4.0 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.63、2.0、6.3、20、63、200 mg/L 実測濃度 0.17、0.57、1.8、5.9、19、62、190 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (設定値に基づく) = 2.5 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0060、0.019、0.060、0.19、0.60 mg/L 実測濃度 0.0052、0.018、0.060、0.18、0.59 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.0052 mg/L		

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 14、23、37、61、100 mg/L 実測濃度 12、22、34、58、94 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（実測値に基づく）=21 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 12 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 10/10、48hr 9/9、72hr 6/9） 22 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 10/10、48hr 5/7、72hr 4/4、96hr 2/4） 遊泳不能（48hr 2/7、96hr 2/4）</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=2.5mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0052mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S60	0/30	—	5(μg/L)
	底質	S60	0/24	—	1(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※ 1 S61 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

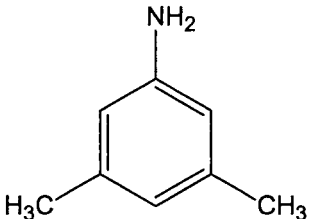
	底質	S59 H10	1/18 1/36	0.0006(μ g/g-dry) 0.01(μ g/g-dry)	0.0006~0.012(μ g/g-dry) 0.005(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S60、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-261	CAS No.	554-00-7
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：2, 4-ジクロロアニリン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種：Selenastrum capricornutum(NIES-35) 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.31、0.63、1.2、2.5、5.0、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.56、1.1、2.0、4.1、9.9 mg/L (幾何平均値) 助剤：エタノール及びHCO-30 (1:1) 40 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >9.9 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =1.1 mg/L</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 試験濃度：設定濃度 1.5、2.7、4.7、8.4、15 mg/L 実測濃度 設定値の 87~106% 助剤：エタノール及びHCO-30 (1:1) 100 mg/L (最高濃度) 48hEiC50 (設定値に基づく) =4.2 mg/L</p>		
ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 Part II (1984 年) 試験方式：半止水式、週に 3 回換水 試験濃度：設定濃度 0.0050、0.016、0.050、0.16、0.50 mg/L 実測濃度 設定値の 88~108% 助剤：2-メトキシエタノール及びHCO-30 (1:1) 2 mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) =0.016 mg/L</p>		

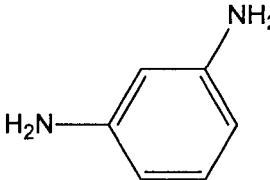
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 3.0、5.0、9.0、16、30 mg/L 実測濃度 2.7、4.7、8.6、14、28 mg/L (幾何平均値) 助剤：2-メトキシエタノール及びHCO-30 (1:2) 90 mg/L (最高濃度) 96hLC50 (設定値に基づく) =8.1 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 5.0 mg/L 群：軽度平衡喪失 (48hr 2/10) 横臥 (72hr 1/10) 9.0 mg/L 群：軽度平衡喪失 (24hr 1/7、48hr 2/5、72hr 1/4、96hr 1/3) 完全平衡喪失 (24hr 1/7、48hr 1/5) 表層遊泳 (72hr 3/4、96hr 1/3) 16mg/L 群：軽度平衡喪失 (24hr 3/8) 表層遊泳 (24hr 7/8) 横臥 (48hr 1/1、72hr 1/1、96hr 1/1)</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=4.2mg/L であり、構造式中に芳香族アミンを有すること、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.016mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=8.1mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51 H10	7/68 0/39	0.032~0.53(μ g/L) —	0.02~0.3(μ g/L) 0.07(μ g/L)
	底質	S51 H10	12/68 0/36	0.0005~0.034(μ g/g-dry) —	0.0005~0.001(μ g/g-dry) 0.008(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S52、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-129	CAS No.	108-69-0
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成15年9月29日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3, 5-ジメチルアニリン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成15年9月29日に告示済み。 反復投与毒性試験において重要な影響及び変異原性がみとめられることから指定化学物 質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 (密閉系) 試験濃度： 設定濃度 2.0、3.4、5.8、10、17、29、50 mg/L 実測濃度 1.9、3.2、5.4、9.5、16、27、46 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) = 29 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 5.8 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 1.0、1.3、1.7、2.3、3.0、5.5、13、30 mg/L 実測濃度 0.97、1.2、1.7、2.2、2.9、5.2、13、29 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (設定値に基づく) = 2.2 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.010、0.030、0.10、0.30、1.0 mg/L 実測濃度 設定値の80~120% 助剤： なし 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.030 mg/L		

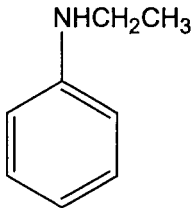
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 6.0、12、24、48、96 mg/L 実測濃度 5.7、12、24、45、92 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=34 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 24 mg/L 群：異常遊泳（24hr 3/10、48hr 3/10、72hr 8/8、96hr 8/8） 45 mg/L 群：異常遊泳（24hr 10/10、48hr 5/6、72hr 1/3） 遊泳不能（48hr 1/6、72hr 2/3、96hr 2/2）</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=2.2mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.030mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	1/68	0.04(μg/L)	0.02~0.2(μg/L)
	底質	S51	5/68	0.002~0.01(μg/g-dry)	0.0005~0.001(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S52 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-185	CAS No.	108-45-2
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成15年9月29日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：m-フェニレンジアミン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定	指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。 吸入慢性毒性（作業環境許容濃度から得られた情報）がみとめられることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 5.6、10、18、32、56 mg/L 実測濃度 5.5、10、18、32、56 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 0-72hErC50（設定値に基づく） = 30 mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく） = 10 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.46、0.99、2.2、4.7、10 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 48hEiC50（設定値に基づく） = 2.0 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.22、0.46、1.0、2.2 mg/L 実測濃度 0.093、0.20、0.47、1.0、2.3 mg/L（時間加重平均値） 助剤： なし 21dNOEC（実測値に基づく） = 0.20 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、48時間後に換水 物質濃度： 設定濃度 100 mg/L（限度試験） 実測濃度 100 mg/L（幾何平均値） 助剤： なし 96hLC50（設定値に基づく） > 100 mg/L		

生態影響 判定根拠	ミジニコ急性遊泳阻害試験において48hEiC50=2.0mg/Lであり、構造中に芳香族アミンを有することから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S53	0/24	—	5~20(μ g/L)
	底質	S53	0/24	—	1.0~2.2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S54版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-118	CAS No.	103-69-5
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：N-エチルアニリン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成12年9月22日に告示済み。 経口反復投与試験の結果から化学物質排出把握管理促進法の第二種指定化学物質に指定 されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 1.9、4.3、9.4、21、46、100 mg/L 実測濃度 1.6、3.6、7.9、17、38、81 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 33 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 3.6 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.30、0.95、3.0、9.5、30 mg/L 実測濃度 0.26、0.84、2.7、8.2、26 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (実測値に基づく) = 4.3 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.075、0.15、0.30、0.60、1.2 mg/L 実測濃度 0.064、0.13、0.27、0.54、1.0 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.54 mg/L		

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 6.2、12、25、50、100 mg/L 実測濃度 5.9、12、24、48、95 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) = 80 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 50 mg/L 群：表層集中 (24hr、48hr、72hr、96hr) 活動度の低下 (24hr、48hr、72hr、96hr) 呼吸数増加 (48hr、72hr、96hr) 100 mg/L 群：表層集中 (24hr、48hr、72hr、96hr) 完全平衡喪失 (24hr、48hr、72hr、96hr) 過活動 (24hr) 嗜眠状態 (24hr) 活動度の低下 (24hr、48hr、72hr、96hr) 呼吸数増加 (24hr、48hr、72hr、96hr) 過敏 (48hr) 軽度平衡喪失 (48hr、96hr)</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=4.3mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有することから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51 H2	2/68 0/54	0.43~0.58(μg/L) —	0.1~0.6(μg/L) 0.05(μg/L)
	底質	S51 H2	20/68 0/63	0.002~0.038(μg/g-dry) —	0.002~0.008(μg/g-dry) 0.05(μg/g-dry)
	魚類	H2	0/54	—	0.0043(μg/g-wet)
	大気	H2	1/36	160(ng/m ³)	130(ng/m ³)
備考	<p>※1 S52、H3 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 7.5、10、13、18、24、32、42、56 mg/L 実測濃度 7.0、9.6、12、17、23、30、41、54 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) =13 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 7.5 mg/L 群：横転 (96hr 1/10) 不活発 (72hr 4/10、96hr 9/9) 10 mg/L 群：水面浮上 (96hr 2/7) 不活発 (72hr 9/9、96hr 5/7) 13 mg/L 群：不活発 (48hr 1/10、72hr 7/7、96hr 6/6) 18 mg/L 群：不活発 (24hr 10/10、48hr 9/9、72hr 4/4、96hr 1/1) 24 mg/L 群：不活発 (24hr 10/10、48hr 6/7、72hr 2/2、96hr 1/1) 横転 (48hr 1/7)</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=3.9mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有することから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/6	—	0.02(μg/L)
	底質	S52	0/3	—	0.002(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S53 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				